自己の存在感を実感できる生徒の育成
―互いを認め合う『NICEカード』の活用を通して―

特別研修員　生徒指導・教育相談　増山肇（中学校教諭）

【生徒の実態】
- 「クラスの重要な一員」だとあまり思っていない生徒が見られる。
- 「クラスの人からほめられることがない」と感じている生徒が見られる。

【中学校学習指導要領】
- 自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成する。

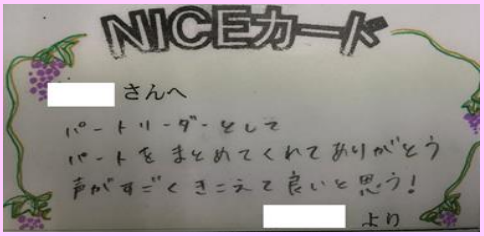
【学校教育の指針】
- 相手のよさを見付けようと努める集団をつくる。

学級活動における『ＮＩＣＥカード』の活用

手立て１
互いのよさや頑張りに気付く工夫

『NICEカード』に互いのよさや頑張りを具体的に書けるように、学校行事に向けて努力している姿を編集した動画等を視聴し、気付いたことを記入する。

学級において、日頃から認め合う雰囲気をつくるために、『NICEカード』を名刺ほどのサイズにし教室に掲示する。



手立て２
互いを認め合う活動の場の工夫

カードを渡す時は「相手の目を見てメッセージを声に出し、もらったらお礼を言う」等のルールを決め、言葉でも認め合うことのできる場をつくる。

私が頑張っていることを見付けてくれてありがとう。

男女混合にするなどのグループ編成により、様々な生徒と認め合う活動ができるような場をつくる。

仲間が僕のよいところを見てくれていて大切な一員なんだと感じた。

自己の存在感を実感

メッセージを読みながら渡すのは、恥ずかしいけど、もらって嬉しかった。

【○成果と●課題】

○　自己の存在感に関するアンケート調査から、「クラスの重要な一員だとあまり思わない」と回答した生徒は32%から19%に減少した。互いのよさや頑張りを具体的に『NICEカード』に記入し、認め合う活動を行ったことが奏功したと考えられる。

●　数名ではあるが、『NICEカード』を記入する際に、何を書いてよいか分からない生徒がいたり、内容が具体的に書けていなかったりする生徒が見受けられた。仲間のよいところを見付け発表する場面などを増やしていく必要があると考えられる。